

YELL ～応援される人になろう～

明石市立衣川中学校

第1学年

学年通信 第34号

2021. 12. 21

世界で活躍する日本人

世界で活躍している日本人はたくさんいます。医療、科学、文化、数えだしたらきりがなほど様々な分野で力を発揮しています。中でも、みなさんにとって身近なのはやはりスポーツでしょう。今日はバスケットボールの最高峰NBAで2年目のシーズンを迎えようとしている「八村塁」について紹介します。日本人はもちろんアメリカでも応援されるプレイヤーです。以下の『 』は、雑誌「Number 第41巻第22号」より、八村選手と高校時代の恩師の談話を要約して引用したものです。



1998 年富山県生まれ。中学1年でバスケットボールをはじめ、全中に出場。さらに名門明成高校で全国優勝を果たし、アメリカ・ゴンザガ大学へ進学。NCAATーナメントに1年生の時から出場し、昨年NBAワシントン・ウィザーズに入団。ドラフトで指名されてNBA入りしたのはじめての日本人プレイヤー。203cm、104kg

「自信」～壁を乗り越えてこそ～

『僕は、自信というのはバスケットボールではすごく大事だと思っています。高校、大学とずっとやってきて、レベルが上がっていくごとに最初はまず壁にぶち当たって、自分でそれを乗り越えて自信になっていくと感じていました。そういうところでは、壁を乗り越えて、デビュー戦2試合で活躍できたのは自信になりました。』

みなさんも自信がなくて、答えがわかっているのに発表する一步を踏み出せなかったり、自信がないことでテストの解答を記入するのに時間がかかったり、部活動で自信をもってプレーできなかったり・・・だれもが最初から自信があるわけではなく、壁を乗り越えてこそ自信をつけていく。神様は乗り越えられない試練を与えない。乗り越えることができる人だからこそ試練を与えられる。

夢から明確な目標へ

『U-17世界大会、楽しかったです。大きな舞台で自分よりデカくて、強い選手と毎日試合するのが楽しくてしかたなかった。得点王はうれしかったけど、次はチームが勝てるようにしたいです。世界一強いアメリカ（38-122で日本は大敗）がいちばんハングリーだった。あれは衝撃的でした。大差がついたのに最後まで本気で向かってきたことに驚きました。それがいちばんカッコいいことだし、だからこそ世界一強いんだってわかりました。僕、この大会に出てますますアメリカに行きたくなりました。』

『取り組む姿勢を直せばアメリカへの道ができるんだ、と気づいてからの彼の成長は本当に早かったです。U-17世界大会で得点王になったことで、「NBAでプレーする」ことが夢物語から明確な目標になって目覚めたのです。そこで「アメリカの大学に行くためには勉強しなければ」と決意して、あれだけ苦手だったのに必死にやることで、進学に結びつけたのだから本当にたいしたものです。彼の優れたところは人の話をよく聞き、その人が言おうとしている真意を理解できたことです。ですから、アメリカのようなレベルの高い環境でやり合えば伸びていくことに確信を持っていました。ただアメリカの競争社会の中で生き抜いていけるかは心配でしたが、それも英語が話せるようになったことで自信をつけたのだから、相当な努力をしたのだと思います。』

夢が明確な目標になった瞬間から、苦手であっても一生懸命取り組み、結果を出せるパワーがみなぎるんですね。また、学年目標の1つである「素直に謙虚に聞こう」精神ですね。みなさんも、まず夢をもち、そして夢が明確な目標になるような体験をしよう。

若者Box

「伝える」と「聞く」を大切に

私は、道徳の授業が嫌いでした。人に考えを伝えるのが苦手で、いつも早く終わらないかなと思っていました。中学校に上がっても同じことを思っていたけれど、ある日から少し向き合い方が変わりました。その授業で一人の子の意見が自分では全然思いつかないようなことで「そんな考え方もあるんだ」と私は思いました。友達の意見もよく聞いているとどの人も自分と似ていても全く同じという事はなくて面白かったです。そして、人の意見をよく聞いていたら今度は自分も伝えたいと思うようになりました。私は道徳の授業は自分たちの見方、考え方を広げてくれるものだと思います。苦手な人も多いと思うけれど、考えを自分の中だけで終わらせるのはもったいないと思うようになりました。新しい発見があるような授業も今よりもっと楽しくなると思っています。これからも「伝える」と「聞く」を大切にしていきたいです。

(中学生 加西市)

<神戸新聞12月発行より抜粋>